

令和元年7月25日開催 第5回目黒区長期計画審議会会議録

区側	<p>[資料の確認および出席者の確認]</p> <p>本日は、宮澤委員、岩崎委員、川原委員、團村委員、花谷委員、岡田委員が欠席である。</p>
会長	<p>[会議の公開について]</p> <p>異議なしのため、傍聴者3名の入室を許可する。 (途中入室1名あり。)</p>
会長	<p>[会議録(案)について]</p> <p>事前に事務局より第4回目黒区長期計画審議会会議録を送付している。修正・質問等はあるか。 異議なしのため、こちらで確定とする。</p>
区側	<p>[第4回長期計画審議会での質問に対する回答等]</p> <p>前回の長期計画審議会における質問については資料2-1にまとめている。まとめられなかったものを資料1とした。双方向のコミュニケーションのあり方について有意義なご提案をいただいたが、長期計画審議会では施策の方向性を議論して頂くことを主としているため、ご提案については、今後、具体的に施策を検討する際に生かしていきたい。</p>
区側	<p>[第4回長期計画審議会における行政分野別審議のまとめ]</p> <p>※事務局より資料2、資料2-1について説明</p>
会長	<p>資料について質問・意見等はあるか。 異議なし。</p>
会長	<p>よろしければ行政分野別審議に移る。 区側からの説明をお願いしたい。</p>
区側	<p>[行政分野別審議(子育て)]</p> <p>(資料により説明(基本構想検討シート:子育て))</p>
会長	<p>ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>「子どもが生まれる前から横断的に支援体制をつくる」というのは喜ばしいことだが、様々な体系の保育施設がある中で、質の確保について</p>

	<p>はどう考えているのか説明いただきたい。</p>
区側	<p>区では、保育の質の確保に努めるため、区立保育園の園長経験者による施設の巡回指導を取り入れている。また公私立の園長会等による事例研究や研修の実施、公私立の保育園同士の交流による情報交換などによって、相乗効果で質を高め合っている。</p>
委員	<p>児童相談所が東京都から区に移管できるようになったが、現状、目黒区内に児童相談所はなく目黒区の児童相談は品川児童相談所が担っている。今後目黒区内に児童相談所を移管する見通しはたっているのか。</p>
区側	<p>練馬区を除く 22 区が児童相談所設立に向け準備を進めている。来年度には江戸川区、荒川区、世田谷区が先行して開設する予定である。どこに建てるかという立地の問題と、人材の確保・育成という人的問題があり、目黒区では具体的な開設時期の目途がたっていない。</p> <p>現状としては、子ども家庭支援センターに心理職や児童の専門職を配置し、順次増やしており、品川児童相談所等にも職員を派遣している。</p> <p>できる限り早く開設したいが、準備不足で拙速にならないよう、他区に遅れることなく開設したいと考えている。</p> <p>国では今後 5 年間、児童相談所を開設する自治体に対し手厚く支援をしていくとしているため、その点も踏まえてしっかりと取り組みたい。</p>
委員	<p>子どもを持つ母親が安心して暮らせるよう、早期の設置をお願いしたい。</p>
委員	<p>子育て支援課等の支援を受けながら子ども食堂を運営している。現在、7 団体 8 つの子ども食堂があるが、来客を断ることもあるほどで子ども食堂のニーズの高さを実感している。絶対的貧困、相対的貧困というだけではなく、子ども達にとって子ども食堂が癒しの場・明日の活力を得る場となっている。だが、この広い目黒区にわずかしかなかく、関わる人も少ない。誰でも歩いて行ける場所に子ども食堂のような場ができる事が望ましい。民間頼りでは限界があるため、行政にもそのような場を提供するような具体的な方策を考えていただきたい。見通しはあるか。</p>
区側	<p>区内にある 7 団体がそれぞれの思いをもって活動していることは承</p>

	<p>知している。民間の力に限界があるというのは理解できるが、区立で子ども食堂を運営するのは難しい。</p> <p>地域共生社会の下で、サービスの担い手と受け手が分かれるのではなく、行政としては、互いに支え合う好循環が生まれるような地域づくりや各団体が疲弊してしまわぬように支援するための施策づくりに努めたい。</p>
委員	<p>運営団体が7つどまりになっており、これでは目黒区内をカバーできない。運営団体を増やすための何らかの方策を講じてほしい。</p>
会長	<p>貧困とは経済的な貧困のみを指すのではなく、時間的貧困、精神的貧困なども考えられる。食事をしたいのではなく、その場に来ることを通して精神的に支えられるといった話があったが、様々な視点から貧困を捉えるべきだ。</p> <p>現状把握の中にデータとして貧困に関するものが出てこないが、目黒区といえども貧困について広くとらえて検討する必要あるのではないか。</p>
委員	<p>「ネットワーク」と「連携」という言葉が何度も出てくるが、もう一步踏み込み、「連携」になにか言葉を足すべきではないか。例えば、「ネットワークの構築」だけではなく「区が主体となってネットワークを構築する」といった表現にするなど、区が環境をつくっていくという姿勢が必要ではないか。地域団体がなければ区が主体となって作っていくという作りこみのマネジメントと運用のマネジメントが必要だと思う。</p> <p>10年後の姿の(4)に「一元的に運用」とあり、これはとても重要な点である。これまでは、児童相談所と支援拠点が一致すれば事故等は防げるという考え方であったと思うが、組織が一つになっても縦割りの壁に阻まれ、そのはざまに落ちることがあるので、「一元的に運用」というだけではなく、ここも何か文言を足してほしい。</p> <p>10年後の(2)で、多様な保育サービスとある。先ほどの答弁で質も含むという回答であったが、やはりこれを読むと数を増やすという意味にとれてしまう。数だけでは十分でなく、質の確保が必要なので、質に関する言及をする必要があると思う。</p> <p>子育て分野か教育分野にあたると思うが、暴力がない、いじめがない、といった内容もどちらかに入れてほしい。</p>

会長	<p>子どもの人権と言いながら、大人がその内容を理解していないことがある。本当に子どもを守り育てられるような、実態を伴うことが必要だろう。</p>
委員	<p>心の拠り所としては、学童（児童館）がその役割を果たしているのではないか。移動学童などもあるが、学童がない地域もある。学童に携わる方へのケアと学童の充実が求められる。学童と地域はすでに近しい関係性ができているので、それを生かしていけるとよい。</p> <p>保育園の数についてだが、現状は年齢ごとに保育園を移らなければならず、細切れになっている。一貫して同じ保育園に通えるようになれば、地域や保育士との信頼関係も構築できるだろう。</p>
委員	<p>目黒区では、学童について 10 年かけて徐々に取り組むという内容になっているが、国の新放課後子ども総合プランの中では、2022 年までに放課後待機児童を 0（ゼロ）にするとうたっている。目黒区のプランと国のプランの整合性はどうなっているのか。</p>
区側	<p>国では、3 年後（2021 年度末）に 25 万人増加、5 年後（2023 年度末）に 30 万人増加と目標を掲げている。現状では、目黒区内で学童保育クラブの待機児童は多数いる状況である。教育委員会と調整しつつ学校内に学童保育クラブを設置したいと検討している。目黒区の児童数は 1 年間で 250 人ほど増加している。クラス増・教室増となり学校現場でも苦勞している。そういった状況を見極めつつ、国との整合性も鑑みて進めていきたい。</p>
委員	<p>政策課題の中に出てきておらず、気になっているのが中途半端層への対応であり、隠れ待機児童の問題である。一時的に主婦になった方で働きたい層に対する支援については、保育と抱き合わせたかたちで働き方支援を進めていってほしい。</p> <p>一時保育に預けたいという人は多いが、予約が電話のみのため不便である。これは早急に改善して頂きたい。</p> <p>家庭・学校・地域との連携とあるが、現状風通しが悪いと PTA の役員をしていて感じている。様々な視点があり、温度差がある。行政には、連携する目的と意義を明確に可視化・再定義してもらって、実施プランをブレイクダウンしていってほしい。</p>

委員長	ネットワークでの予約といった具体的な取組について話があったが、方策はとっているのか。
区側	一時保育については、現在は認可保育園が9か所、認証保育園が2か所、計11か所で一時保育を行っているが、ご指摘通り一時保育は需要が高く予約が取りにくい状況である。また、各保育施設の予約システムがそれぞれ異なっているため、一元化できない状況である。この辺りは検討課題となる。
会長	検討課題として、ご意見をいただいた点については検討いただきたい。
委員	<p>共働き世代が増加している中で、子どもを家庭で育てるのではなく「地域が、社会が子どもを育てる」という基本理念・基本目標になっているが、子どもの自立といっても過言ではない書き方ではないだろうか。基本は保護者が子どもを育てるのが、より良い環境だとは思いますが、子育ての補助的な役割として学童などは必要だと思うが、夜間保育に子どもを預け親は仕事でという、子どもは一人で生きていくというようにも見受けられる。</p> <p>子育てふれあいひろばのような子育てに悩む保護者へのフォローが、虐待などの未然の防止につながるのではないかと。また、子ども自身のはけ口が不足しているのではないだろうか。有料サービスでなくとも、そういったはけ口となる環境の整備を自主的にしていくべきではないか。今後の政策の方向性にはそういった視点も盛り込むべきではないか。</p>
委員	問題解決の方向性にある5年後の(4)や10年後の(4)については、もっとスピーディに取り組むべきではないか。これは一刻も早く取り組むべき課題だというのが、率直な意見だ。お考えをうかがいたい。
区側	現在、虐待防止の体制が全くできていないかという、そうではないと考えている。品川区の児童相談所は都の施設ではあるが、現在の体制の中で出来る限りの連携を取り、取り組んでいる。一元的な体制を目指す中では途上であると感じているが、今後できる限り早い体制づくりに努めたい。
会長	では、次に教育分野について区から説明をいただきたい。

区側	<p>[行政分野別審議（教育分野）] （資料により説明（基本構想検討シート：教育分野））</p>
会長	<p>ご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>現実問題としていじめが横行している中で、子育ての時点で何か問題があったのではないかと考えている。いじめ撲滅に向けての対策を検討いただきたい。</p> <p>特養ホームで起きた事件等を受けて、小学生からの教育が必要と感じ、区に要請をして小学4年生向けの冊子を作成していただいた。今年は中学生向けの冊子も作成していただいた。他区にはない良い取組だと思うので、今後も続けてほしい。</p> <p>学校だけではできないので、PTAと更に連携して取り組んでいくことが必要である。</p>
委員	<p>いじめに関連し不登校や引きこもりの問題等もあると思うが、現状把握としてそういったデータの共有が必要ではないか。</p> <p>学校の情報化対策についてだが、来年度の小学校の教科書には、発展的学習として全ての教科書に2次元バーコードが付与される。目黒区の小学校にはWi-Fi機器やタブレットなどがほとんど導入されていないため、学校の授業では使用できず家庭学習でしか使えない。これは大変なことではないだろうか。渋谷区では全員にタブレットを配布するという事なので、教室の中で使用することができる。</p> <p>中学校は再来年から教科書にバーコードが付与されるとのことだから、目黒区の目指す5年後10年後では遅すぎるのではないか。教育分野でもIT化や情報化は緊急の課題ではないだろうか。</p>
委員	<p>学力は数値化できるが、小学生・中学生の時期には個々の成長に応じた学習活動がなければ、いじめの問題や引きこもりにつながるのではないか。事件などの問題が生じれば臨床心理士が学校に派遣されるが、日常的に子どもたちの心の成長に寄り添っていく臨床心理士の位置づけについてはどのように考えているか。</p>
区側	<p>心理職による支援については、各小中学校、幼稚園、子ども園にスクールカウンセラーという心理職を配置している。小中学校では週に2～</p>

	<p>3日程度である。また目黒学校サポートセンターの教育相談員が11名おり、これは全員が心理職であり、兼務として週に1日スクールカウンセラーも行っている。その他、特別支援教室の事業では、東京都から臨床心理士が月に1回程度派遣されている。</p>
<p>委員</p>	<p>新たな政策課題（6）の教員以外の専門スタッフについてだが、学校の現場では先生は部活動の指導など、雑務で忙しいと聞いているが、学校は子どもたちが勉強する場でなくてはならない。それを支援するための専門職等の派遣をぜひお願いしたい。</p> <p>息子はアメリカに住んでいるが、自分の子どもの通う学校でプログラミングの指導をボランティアで行っている。目黒区でも、そのような連携ができていくとよいのではないか。専門職も含め、いろいろな形で外部の人材やスタッフなどを取り入れていくとよいのではないだろうか。</p>
<p>委員</p>	<p>めぐろ学校教育プランの目指す子ども像についてだが、この「たくましく」という言葉に違和感を覚える。また、新たな政策課題の（1）に「児童・生徒の基礎的な力の確実な習得に」とあるが、それがままならない子どももいる。子どもの権利条約には、休息・学び・余暇の権利があるが、やれたくましくなれ基礎的な力を身に着けろとなると、子どもがゆっくり休息する時間があるのか気になる。あまり煽るような表現は慎んでもらいたい。</p> <p>また（6）に「チームとしての学校」とあるが、そのチームは風通しの良いものでないといけない。上意下達では本当のチームではないので、そのあたり配慮しながら「チームとしての学校」という言葉を使うべきだと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>時間の制約があるため、回答については次回とさせていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>3. 区の現状についてだが、図表1では学力が高いと示されている。各学校でよい取組がたくさんあるので、他の地域へのアピールに使えるのではないか。また、産業振興や現場の教師の士気向上にもつながると思うので、アピールすべきだと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>教育に関する意見は多々あると思うので、何かあれば事務局宛てにメールや手紙等でご連絡をいただき、足りない時間を補っていただきたい。</p>

区側	<p>では次の生涯学習の分野について進めていきたい。</p> <p>[行政分野別審議（生涯学習分野）] （資料により説明（基本構想検討シート：生涯学習分野）） 資料の修正4点あり。</p>
委員	<p>2. 近年の社会状況の変化（3）にある子どもの居場所作りについてだが、放課後にデイサービス等があるが、学校を卒業すると支援を受けられなくなり、居場所がなくなってしまう。ぜひ検討いただきたい。</p> <p>また、4. 目黒区教育に関する大綱にある「スポーツレクリエーションの振興」とはどういうことかお聞きしたい。私はスポーツとレクリエーションはそれぞれ切り離して考えるべきだと思うがいかがか。</p>
区側	<p>後日、回答させていただきたい。</p>
委員	<p>5. 新たな政策課題の（3）に家庭教育支援についてだが、最近自己中心的な理由から発生する事件が多いように感じており、子どもの頃からの親のしつけが大きく影響しているのではないだろうか。ストレスフルな時代背景の中で、6. 課題解決の方向性（3）にあるように家庭教育の支援・充実の取組を進めていただきたい。</p>
委員	<p>6. 課題解決の方向性にある（1）、（2）についてだが、区主導の事業についてはここでカバーされているが、生涯学習は区主導だけでは限らない。民間で行っている生涯学習を区が支援することがあってもよいと思う。「区が提供」という書き方をすると区のサービスの中で行うような印象を受けてしまうが、民間の取組を区が支援するというのもあり得るので、書きぶりを検討いただきたい。</p>
委員	<p>2. 国や都の動きや方向性（3）に人生100年時代を見据えた生涯学習の推進とある。区としては、人生100年時代の中で、どういった多様な学習機会をイメージしているのか、その方向性があれば教えていただきたい。</p> <p>また、6. 課題解決の方向性（2）にある「区民の学習成果を活用した」とあるが、学習成果は具体的にどのようにみていくのか、決定している内容があればお聞きしたい。</p>
区側	<p>人生100年時代で寿命が延びていく中で、どのようなニーズがあるの</p>

	<p>か掘り起こすところから進めていきたい。具体的な案についてはこれからだが、高齢者の健康状態等に応じた柔軟な対応が取れるようにしたいと考えている。</p>
<p>会長</p>	<p>説明等で不足があれば、次回ご回答いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>グローバル化に関わることだが、目黒区内の神社やお寺などで文化体験ができるのかどうかについて、海外の方に尋ねられることがよくある。そこで、大人だけでなく、子どもに向けてももう少しそういった点をアピールしてはどうか。</p> <p>また、囲碁・将棋・茶道・華道・和裁など海外に持っていきやすい日本文化を行政から子どもたちに向けて発信していただきたい。</p> <p>民間業者との連携についてだが、もっと目黒区らしい文化継承ができるのではないかと。連携が取れるのではないかと。目黒川の川沿いには印刷業者が多い。例えば、そういった印刷を体験させることで、独自の文化体験ができる。その他にも、大手の芸能事務所があったり、バレエ団があったりする。目黒区+文化といったものを子どもたちにもっとアピールし、確立していくべきだろう。</p> <p>目黒区は都内でも有数の美容室の多さを誇り、おしゃれなイメージがある。そういったことを子どもたちが実感できる体験をさせたり、分野が異なるが、介護施設の入居者といった高齢層に向けて美容体験してもらい若返りをはかることもできるのではないだろうか。</p>
<p>会長</p>	<p>時間に限りがあるため、ご意見等のある委員はメール等で事務局にお知らせいただきたい。</p>
<p>区側</p>	<p>[行政分野別審議（環境分野）] (資料により説明（基本構想検討シート：生涯学習分野）) 資料の修正2点あり。</p>
<p>委員</p>	<p>3Rへの取組は、6. 課題解決の方向性における5年後の(3)に分類されるのか。</p> <p>また、芸術部門で目黒独自の「文化縁」について話があったが、あちらでも3Rを推進しているようなので、3Rへの取組が終わりでないのであれば、今後もその言葉の使用を続け、今後も推進していくという姿勢を示した方がよいのではないかと。</p>

委員	<p>6. 課題解決の方向性（3）に「全ての資源とごみの適正排出に向けた普及啓発」とあるが、意味が把握しにくいいため具体的な説明をいただきたい。</p> <p>5. 新たな政策課題（7）について、戸別収集という話があったがその点の詳しい説明をお聞きしたい。</p>
区側	<p>まず、ごみの適正排出に向けた普及啓発についてだが、ごみの分別は資源で4品目に分かれ、その他に燃やすごみ、燃やさないごみ、古紙、水銀を含む製品と分かれている。しかし、実際には、資源として分別されるべきものが燃やすごみや燃やさないごみとして出されている。こういった状況が改善できれば、ごみの総量が減少するため、そうしたことを意図して「資源とごみの適正排出」と記載している。</p>
委員	<p>そういった目的であれば、「目黒区の分別に沿って」といった文言を追加し、誰がみてもわかりやすい表現にしていきたい。</p>
区側	<p>2点目について、近年、高齢化の進行や生活スタイルの変化等によって、かつてのような大規模集積所の維持管理が難しい状況となっており、そのため分散化が進み、小さな集積場が多くなっているというのが現状である。今後の対策としては、戸別収集等も考えられるが、その場合は収集作業の時間の増加だけでなく、収集費用も増加してしまうため、将来的な課題として記載している。</p>
委員	<p>「啓発」という言葉が多用されているが、他方では、どうしたら関心を持ってもらえるのか、といった手段を具体的に考えていく必要があるのではないだろうか。環境問題を幅広い層に知ってもらうための情報発信が必要だろう。</p> <p>同様に、「～する必要がある、～を守る必要がある」といった表現が多い。目黒区環境基本計画の基本方針4で、「健康で快適に暮らせる生活環境を確保する」ではなく、例えば「生活環境を創出する」として自ら取り組み、創っていくという表現にする考え方もあるのではないか。文言を検討いただきたい。</p> <p>環境分野を越えた話となってしまうが、全体的にどうやったら関心を持ってもらえるか、取組につなげていくのかということをも文言の中に組み入れていただきたい。</p>
会長	<p>どの立場からものを見ていくのか、視点をどこに置くのかということ</p>

<p>会長</p>	<p>だが、行政、地域、家庭が一体となって作っていく場合、地域へ目を向けることは重要である。文言の書き方は重要であるため、今後取りまとめの中で工夫していく必要がある。</p> <p>環境についてだが、行政が取り組んでいる環境と、区民が生活している環境とでは概念として全く違うものである。例えば、かつては健康の環境というものがあつた。</p> <p>情報化に関連し、10年後には、環境分野における行政からの情報提供などは、自動配信されデジタル社会として位置づけられるだろう。</p> <p>ほかにもマイクロプラスチックの問題は国際的な課題であるが、「区内では絶対に使わない」という姿勢で行くのかどうか。プラスチックは使わず、紙を使用するとした場合でも、資源問題や環境問題が生じてくるので、バランスが重要であろう。</p> <p>また、治水、公園緑地、騒音などの問題も環境として意識しなくてはならない。上空騒音の問題など、かつてとは異なる避けられない環境問題に対し、どうやって目黒区の環境を守るのかという視点が必要であり、近年はその対象範囲が広がっていることに留意いただきたい。</p> <p>審議会終了後のご意見を受付けているため、適宜事務局へご連絡いただきたい。</p>
<p>事務局</p>	<p>[その他連絡事項] (区より今後のスケジュールの説明)</p> <p>[閉会]</p>